

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170201457		
法人名	医療法人社団 日翔会		
事業所名	グループホームつつじ(がいな通り)		
所在地	鳥取県米子市米原6丁目9番23号		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/31/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvsoCd=3170201457-00&PrefCd=31&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	保険情報サービス		
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1		
訪問調査日	平成26年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

お一人おひとりが、その方らしい生活ができるよう努めております。「お客様には、楽しく生活して頂きたい」「生き生きとした笑顔が見たい」と、お客様の要望を取り入れてた企画を計画し、気分転換がはかれるように取り組んでいます。年間行事(季節行事)やクラブ活動(YONAGOクラブ・ワイワイクラブ)や地域行事に参加されたり、近隣のボランティアの方に来訪して頂き、交流を深めながら生活されています。また、併設のデイサービスや住宅施設との合同行事を企画し参加して頂くことにより、地域の方々やご家族様との交流も大切にしています。そして、ご家族様やご本人様の「最期まで、つつじで暮らしたい」という要望にお応えし、施設での看取りケアの実施をしています。施設内だけの支援とならないよう、地域の方の協力を得ながら、この地域で暮らしていけるように特に力を注ぎ努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームつつじは、通所介護、居宅介護支援、訪問介護、サービス付き高齢者住宅と併設されており、「米子ヘルスケアつつじ」として地域密着型施設として運営されている。地域密着型施設の役割を理解され、地域の一員として行事等に積極的に参加されている。法人の行動方針を始め、書式類も整備されており、マニュアル類も整備されていました。利用者一人ひとりの尊厳を守りながら、その人らしい生活が送れるように、職員みんなで作成した理念と基本方針に基づきながら、理念に沿ったサービスが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員から、応募した上で作成した基本理念と基本方針がある。一人ひとりが常に持ち歩いており、理念を述べる事が出来る。	法人の行動指針「こやまケア」が目につきやすい所に掲示されており、毎朝唱和し共有している。またホーム独自の基本理念と基本方針が職員全員で作成されており、年1回見直しも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	開設時より自治会の会員となっており、催し物や行事への参加に努めている。公民館行事や地域の祭り、溝掃除や、草刈り、神社の清掃等の地域活動もお客様と一緒に参加している。毎年11月3日には、地域の球技大会があり、チームつじとして出場しており、今年度は、地域より選手要請の声があった。米原祭り参加では、実行委員の方から、連絡を下さるほど、地域と近い関係作りが出来ている。	開設時より自治会に加入しており、公民館行事や地域の米原祭り、溝掃作業等の地域活動にも職員と利用者で参加されている。地区の球技大会にも職員が参加されている。また、保育園との交流や歌や踊りの地域ボランティアの方との交流もある。避難訓練に自治会の方にも参加頂きホームを理解頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの見学施設として、毎年来訪して頂いている。また、地域の認知症相談窓口となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、施設内外の活動状況を報告し、その内容について出席者の方々に評価をしてもらい、ご意見や提案、助言を頂き、施設内のサービスの向上に取り組んでいる。施設内で起こった事故についても報告を行なっている。地域住民の方も参加して下さい、避難訓練にも参加して下さい。	2ヶ月に1回実施されている。家族代表、自治会代表、老人会、地域包括支援センター、米子市長寿社会課に参加頂いている。ホームの活動、事故やヒヤリハット等の報告を行い、意見や助言を頂いている。推進会議の折に避難訓練を実施し委員の方にも参加してもらっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時に地域包括支援センター&長寿社会課の職員さんが参加して下さい、相談等を行いながら話し合いを行なっている。	運営推進会議にも参加頂いており、相談にのって頂いたり、要望を伝えたりされている。日常的には手続きや制度について、相談したり意見をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」については施設に掲示理解できている。法人全体の研修に取り入れ勉強を行っている。玄関の施錠については、手順書に基づき7:00~17:30は開放している。問題がある場合には、委員会やミーティングで話し合いを行う。	法人全体の研修をホーム内で取り入れ研修を行っている。またスピーチロックについても研修され理解されている。課題等が発生した場合にはミーティング等を行い対応されている。「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」をホームに掲示職員は理解をされている。玄関は7:00~17:30まで開放し、気を付けながら対応されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は、高齢者虐待防止関連法について学んでいる。お客様が外泊・外出時や施設内で虐待されることがないように注意を払い、防止に努めている。法人統一研修として、法人で取組を行っており、それを基に、施設内でも研修会を実施し、職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県が実施する研修会に参加し地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度について学んでいる。ご家族様に相談を受けた場合等にも、管理者等が話し合えるようにしている。前例として、成年後見制度を利用され、裁判所との話し合いに立会いを行なった例もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時には、お客様や、ご家族様に権利や義務についての説明を行なっている。また、お客様や、ご家族様の不安や疑問点については話し合いの場を設け理解、納得いただけるよう十分に説明を行なっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、意見・苦情を表示出来る場を設け、外部の方やご家族等に対して、回答を行なっている。年1回お客様、ご家族様へのアンケートを実施し運営に反映している。アンケート回収後は、ご家族様へ集計表・改善報告書を郵送し、施設内でも閲覧できるように、施設玄関に掲示している。	年1回利用者、家族にアンケートを実施されており、結果、改善策を家族には郵送されている。また、ホーム玄関に掲示もされている。利用者には日常的に会話の中から、家族の方には面会時や介護計画の見直しの時など意見要望を聞いておられる。頂いた意見や要望は介護計画に反映してサービスの向上を図っておられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行なっている。また、日頃から管理者は、業務中でも職員に声を掛けコミュニケーションを図るようにしている。お客様の日々のサービス内容と方向性については、カンファレンスや全体ミーティングで話し合い、現場の職員の意見を聞き決定している。	職員一人ひとりが年初に個人目標を立て年2回進捗状況の確認も兼ねた個人面談が開かれ、その折に職員に意見、要望を聞くようにされている。また、サービス内容についてなどは、ユニット毎にカンファレンスを週1回、ミーティング月1回行い意見提案を聞いている。全員で話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員が、個人目標計画・教育訓練計画を立て、目標が達成できるようにサポートしている。個々の努力に対しては上司がきちんと評価し、やりがいを持って仕事ができるよう心がけている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験等の段階に応じ、研修での技術や知識を学ぶ機会を設けている。グループの研修や法人の研修にもなるべく多くの職員が受講できるようにしている。資格取得に向けても、法人全体で計画を立てバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の相互研修へ参加し交流を図ったり、自施設以外の職員の意見や経験を聞きケアに活かしている。また、県や地域で行われる研修会やグループホーム協会の勉強会には積極的に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設入所前には、管理者と介護支援専門員にて必ず面談に伺い、お客様の今の思いを聞き、置かれている心身の状況を把握するよう努めている。また、出来る限り施設見学等もして頂き、施設の雰囲気を感じて頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設入所前には、必ず面談に伺い、これまでの経緯を聞くと共に、困っている事や、不安な事も十分に聞き、今後のサービスについて一緒に話し合っている。待機期間には、定期的に連絡を取り現状を把握し、いつでも相談できる様になっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に今の状況をきちんと把握し、現状で必要なサービスが何かを見極め、当施設で対応出来ない場合には、法人内外の各事業所のケアマネージャーや支援相談員と連携しながら、早急な対応が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、お客様と馴染みの関係を作り、一緒に過ごすことにより、日々の生活を共に楽しんでいる。会話の中から、不満や楽しみ昔の話を聞き、ケアに生かしている。季節行事や、洗濯等の家事、生活の場面に応じ、お客様から教えて頂ける機会が多く持てるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や、電話・毎月のお便りにてお客様の日々の生活のご様子や、職員・ご家族様のお互いの気づきや思いを伝え、ご家族様と情報を共有し、喜怒哀楽を共に出来る関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との、墓参りや、近所の方が来設され交流を続けているお客様もおられる。誕生日の企画では、馴染みの地へ行かれたり、家族の経営する食堂へ行かれる等、特別な機会を設けている。連絡をとってほしいとの要望があった場合には、いつでも電話が出来るように支援している。	近所の方の遊びに来られ交流されたり、行きつけの理美容に行かれる方もある。誕生日の企画で、馴染みの場所に出かけたりもされる。土日には、家族の方と外出し墓参りをされたり、散歩を楽しまれる方もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お客様同士が協力し、洗濯物をたまたまれたり、茶碗拭きをされたり、気の合う方での外出することも支援している。また、お客様同士の、トラブルのないように職員が間に入り、円滑な関係が築けるよう支援している。1F、2F間でも仲の良いお客様は行き来をして過ごされたり、行事を通し交流をされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方に対しても、都度、ご家族様からの相談を受けたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中でアセスメントを行い、出来る限り思いや希望が実現できるよう検討を行ない支援している。お客様の思いや希望・意向を元に、誕生日の企画を立てる等、行事企画をたて実現することも行っている。	入所前のアセスメントで生活歴等を検討、日々の会話や「クラブ活動」等の興味を確認しながら本人本位に生活できるようにされている。行事や誕生日の企画にも役立っている。家族の方にも面会時、介護計画の変更時などに意見要望を確認し検討されている。	利用者の方の生きがいや生きる目標を見つけられるような働きかけを継続されると良いと思います。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントで得た情報を元に、日々の会話の中やご家族様や知人の面会時に話しを聞き、どのような生活をされていたのか把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、言葉を記録に残し把握している。心身の状態の変化等は、記録と口頭にて申し送り把握している。職員が新たに気づいた、お客様が出来る事や要望はすぐに対応出来るよう、担当者を中心に、カンファレンスで検討を行なっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	お客様が自分らしく暮らせるよう、関係者の意見を含めて課題となる事をカンファレンスで話し合い介護計画作成に活かしている。3ヶ月に1回モニタリングを行い、ご家族様の承認を得ている。	利用者、家族の意向や要望や関係者の意見等を聞き、カンファレンスで話し合い介護計画の作成が行われている。3ヶ月モニタリング・評価を行い、介護計画を提示し、家族の承認を得られている。介護計画に沿った記録がある。計画の見直しは定期的に行われており、変更も現状に即して行われていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	担当者会議に、ご本人が参加される場合もあり、介護計画作成に活かしている。参加できない場合には、面会時やモニタリングの説明時に話を聞いている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の施設と連携しながら、敬老会等の行事に参加できる機会を作っている。医療面や栄養面・運動・補助用具等でのアドバイスが必要な時には、デイサービスの各専門職(看護師・理学療法士・栄養士)や、法人内の事業所(福祉用具)に相談を行い、協力を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に入会し、地域の行事に参加出来るようにしている。また、地域の方や消防署立会いによる定期的な避難訓練も実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	お客様、またはご家族様が希望された病院が、かかりつけ医となっている。また、訪問診療所が3ヶ所ある。かかりつけ医以外に受診する場合には、ご家族様と相談し医療機関を決め、受診後には、結果を報告している。ご家族が受診の付き添いをされる場合は、「病院受診時の連絡票」を記入し、受診をされている。	利用者、家族が希望されるかかりつけ医となっている。訪問診療の医療機関も3ヶ所あり、適切な医療が受けられる。家族の方の都合が付かない時は職員が付き添い、家族に結果を報告されている。家族付き添いの受診時は「病院受診時の連絡票」があり、かかりつけ医と連携を取るようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、週1回看護師の配置を行い、健康管理に努めている。体調に変化があった場合は、看護職員との連携を図り対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が生じた場合には、日頃の様子、及びサービス内容について情報提供し、安心して過ごせるよう支援している。(ADL等を情報提供書とし渡している)また、入院中の面会も、職員が頻回に行い、ご家族様や、医療機関と情報交換を行い早期退院に向け支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを実施しており、指針を定めている。お客様の状態の変化が見られた場合には、医師、看護師、ご家族様、管理者、及び施設職員を交え、ご家族様の要望を踏まえ今後の対応方針について話し合いを行い、希望に添えるよう対応を行っている。	平成24年より看取りケアを実施されており、指針の明文化もある。家族、医師、看護師、管理者、職員等関係者で十分話し合いが行なわれ対応方針が共有されており、家族にも同意が得られている。重度化や終末期のケアにチームで支援するための職員研修も実施されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内外の研修を利用し、救命救急講習を受講している。年1回消防署指導のもと、施設内でも研修を開講している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方にも参加して頂き年2回の夜間想定訓練を実施している。抜き打ちで、緊急連絡網の連絡確認&訓練も実施している。また、連絡網にも地域の方の連絡先を入れていただき協力を得ている。運営推進会議でも、市や地域の体制について情報を頂いている。	地域の方も参加頂きなら、年2回昼、夜想定訓練を実施されている。訓練終了後には、反省会を開き、検討されている。緊急連絡網に地域の方に入って頂き協力頂いている。火災など災害時には地域の方に避難場所を待機頂き利用者の安全確保をお願いされている。備蓄の用意もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉掛け、対応を行なっている。また、禁句集を作成し、プライバシーを損なうような言葉掛けはしないようにしている。記録等の個人ファイルにも、名前を掲示せずお客様の話をする場合には、実名を出さずに話をし、プライバシーの保護に努めている。	個々の人格の尊重に心がけておられ、個々に合わせた声掛けがされている。禁句集を作成され職員は常に携帯するなどして気を付けるようにされている。職員トイレにも貼ってある。記録等の個人ファイルや居室の名札実名を出さず、何丁目何番地というように表記されプライバシーの確保がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間も自分で選んで頂けるようメニュー表を使ったりしている。入浴の準備の際、服を選んで頂く等、個々に合った支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、本人のペースを保ちながら日々生活していただいている。お客様の要望の時間に食事をして頂いたり、お茶の際は、好きな時間・場所で飲んで頂けるように、お客様の希望に添うよう、配慮し柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際には、お客様に洋服を選んで頂いて、本人に気に入ったものを着用されている。外出には、帽子、スカーフなどをしておしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好品調査を実施。茶碗拭き・盛り付け・台拭き・茶碗洗い等、個々のお客様の力に合わせて一緒に行なえるよう支援している。また、職員と、同じテーブルで食事をとり、会話を楽しみながら食事をしている。	栄養士による嗜好品調査が実施されており、好き嫌いなどが把握がされている。可能な利用者は食事の際のお手伝いをして頂いている。食事は、利用者と職員が同じテーブルで取り、会話を楽しみながらされていた。行事食や外食など、利用者の希望に添えるようされている。	食事の際、車椅子の利用については、検討されると良いと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し、把握を行なっている。一人ひとりの状態に合わせた食事の提供方法を考え工夫し、食事摂取量の確保が出来るよう支援している。また、水分量の少ないお客様には、ゼリーや好きな飲み物を提供するなど工夫を行い、水分量の確保に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け及び誘導を行ない、ホール洗面台にて歯磨きを行っている。また、一人ひとりの口腔の状態に合わせた、歯ブラシの検討を行ない使用している。また、曜日を決め週3回、義歯をポリデントにて洗浄を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をもとに、排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導を行っている。トイレ内も出来るだけ自分の力で動作ができるようにな設備を整えている。	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンや利用者のサインを把握してトイレ誘導を行っておられる。全利用者トイレで座っての排泄を心掛けておられ、なるべく自分の力で排泄できるよう支援されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味のお客様には、牛乳を飲用して頂いたりしている。生活の中に体操を取入れたり、天気の良い日は、散歩に外出し、出来るだけ体を動かして頂けるよう支援している。また、今年度は、排便に関する事例研究を行い、自然排便を目指した取り組みを実施した。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お客様の要望(時間や入浴日数)やタイミングをに合わせ入浴して頂いている。	利用者の希望(午前、午後、一番風呂、同性介助等)を聞きながら1週間に2~3日入浴して頂いている。入浴は個室で行われ、2人介助の方もおられる。拒否の方は着替えなどを行ないながら入浴ができるよう支援される。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お客様の状態や、疲れ具合によって、各居室や、お客様の安らぐ場所(落ち着いた場所)にて休息できるよう支援している。寝付けない時には、職員が話をしたり、飲み物を用意する等の配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のお客様の薬の目的・副作用・用法・用量について理解している。また、薬が変更になった場合は、きちんと申し送りを行い、服薬変更後のお客様の状態の確認と、状態変化が見られる時には主治医に連絡し指示を仰いでいる。薬のセット・配薬・服薬時は、きちんと手順を決め、重ね重ね確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を生かし、また日課・役割となるよう支援している。また、個別に外出を行ったり、お客様の力を活かし、季節のお菓子を作る行事を行い、楽しみや気分転換を図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お客様の要望により、昔暮らしていた場所へ出かけている。また土日は、ご家族様との大切な時間を過ごされ、外出や散歩を楽しまれている。	利用者の希望で買い物やドライブに出かけたりされる。行事でのドライブの折には外食もされる。天候の良い時は事業所の近隣を散歩される。事業所の近隣の「お散歩マップ」が作ってあり利用者が見やすい壁に貼ってある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方は、自分で管理されている。また施設で預からせていただいているお客様の中でも、店での支払いが出来る方は払って頂いたり等、その場面で出来る事を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば、すぐに電話をかけることができるように対応している。施設に届いたお客様宛てのお手紙も手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気(生活感)が出せるよう、お客様が好まれるような花を飾ったり、季節感の分かる飾りつけを行い工夫している。また、食堂に居れば、家事の音、ご飯の炊ける匂いがし、時には音楽等を流している。好きな時間に自由にテレビも視聴できる。	共用の空間は広く取ってあり移動が楽にできる。廊下の壁には、行事の写真や皆さんが作成された作品が飾ってあり、楽しむことができる。テレビの前にはソファが置いてあり、くつろげるスペースとなっていた。温度管理や室温管理も気を付けられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の空間としては、食堂が主である。お客様にくつろいで頂けるよう、テレビ前には、ソファを置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室へは、今まで使用されていた馴染みの生活用品を持ち込まれている。また、ご家族様の面会時や、外泊時に、お客様の好みや馴染みの物を継続的に持ち込み、居心地の良いその人らしい居室となっている	極力在宅当時、利用者本人が慣れ親しんだものを持ち込んで頂いている。使い慣れたソファ、ベッド、筆筒、ハンガーかけや写真など持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	自分でできることは見守り支援している。張り紙や目印の工夫を行い自立支援を促している。状態が変わり混乱や失敗が生じた場合には不安材料を取り除き力を発揮できる様に支援している。		